

『富山史壇』 第一九七号

二〇二二年（令和四年）三月 越中史壇会

史料紹介

立山・伊勢・西国道中記（上）

鈴木景二

立山・伊勢・西国道中記（上）

鈴木景二

江戸時代の半ば以降、伊勢参宮を代表とする寺社詣が盛んになる。その旅は多額の費用と日数を必要とする一生に一度の旅行であったから、伊勢への道筋の名所はもちろん関西、四国まで足を延ばすこともあった。ここではそのような旅人の残した約三か月におよぶ「道中日記」を紹介する。その記述は小遣帳というべきものであり、旅の感慨をうかがうことは難しいが、行程と支出を客観的に知ることができる。さらに、饒別、留守中家族への村人の見舞、土産の詳しい記載もあり、伊勢参宮が村社会において、どのように行われたのかについても知り得る史料である。

旅の主人公は大倉与市（郎）。越後国魚沼郡芦ヶ崎村小下里、現在のJR飯山線、越後田中駅から信濃川を渡ったあたり、新潟県津南町芦ヶ崎小下里の人である。

旅に出たのは天保十一年（一八四〇）七月二十二日（現行曆八月十九日）。十二代将軍徳川家慶の治世で、この月、長崎に來航したオランダ船により隣国のアヘン戦争勃発が伝え

られている。翌年には老中水野忠邦による天保の改革が始まる、そんな時代である。盆の行事を終えてまだ暑い時期に旅立ち、帰宅したのは冬の近づく十月十七日であった。稲刈りや脱穀の忙しい時期に家を留守をしているのは、豪雪地帯のため冬季の旅を避けたためであろうか。

出発時には、本人与市・上野長右衛門・後小左衛門・供の喜右衛門（翌日帰る）、それに少なくとも田中村庄左衛門・佐右衛門・傳左衛門・孫助が一緒であったが、途中、越前と近江の国境栃木峠で後者四名と別れている。別グループは京都方面へ直行したのかもしれない。

史料は、縦一八六ミリメートル・横八八ミリメートル。表裏に厚紙表紙を付した袋綴じの横半帳。本紙六九丁。個人蔵。記述内容は、以下の部分からなる。

- ① 日記。日々の支出とメモ
- ② 出発・帰宅時の支出
- ③ 持参金之覚

道中記行程表

日付	泊	宿	宿泊代(文)	支出	歩行距離(里)
7月22日	牧	長左衛門	95	192	8
7月23日	名立	大文字屋治兵衛	142	285	11
7月24日	外波	佐藤七右衛門	140	290	10.5
7月25日	泊	室屋与四左衛門	150	170	5
7月26日	滑川	菓子屋	140	223	10
7月27日	芦峯寺	宝伝坊			8
7月28日	芦峯寺	室堂			
7月29日	芦峯寺	宝伝坊	500	1603	
8月1日	富山	平井屋又右衛門	180	451	6.5
8月2日	石動	山田屋清兵衛	160	182	10
8月3日	金沢	小原屋	160	510	8
8月4日	月津	矢田屋仁兵衛	150	200	10
8月5日	舟橋	餅屋	170	306	11
8月6日	今庄	島崎屋又四郎	185	244	12
8月7日	小谷	称名寺	0	128	12
8月8日	藤川	記載なし	172	248	5
8月9日	桑名	記載なし	172	290	15
8月10日	上野	丁子屋伝七	64	178	9
8月11日	伊勢一身田	桐竹膏薬屋	164	1朱・827	1
8月12日	明星	富屋半七	150	360	8
8月13日	伊勢山田	御師広田宅		2朱・2010	
8月14日	のじり	木銭	40	151	9
8月15日	馬瀬	木銭	48	175	9
8月16日	三木里	木銭	48	133	6
8月17日	有馬いちぎ	木銭	48	171	8
8月18日	新宮	木銭 角屋九兵衛	64	236	2.5
8月19日	小口	木銭	40	332	8
8月20日	湯ノ峰	木銭	64	513	4.5
8月21日	潮見峠	木銭	40	167	9.5
8月22日	小松原	木銭	45	223	10.5
8月23日	加茂谷	木銭	40	212	9
8月24日	岩出	木銭	48	258	8.5
8月25日	高野山	清浄心院	300	1分566	
8月26日	大畑	木銭	40	117	5
8月27日	堺	阿内屋茂吉	184	263	8
8月28日	大坂	河内屋			
8月29日	大坂	河内屋	224	3162	
8月30日	当麻	木銭 米屋栄蔵	48	240	8
9月1日	吉野			66	8
9月2日	吉野	さこや平右衛門	363	774	6
9月3日	初瀬	木銭 扇屋	50	201	8
9月4日	法隆寺	(木銭) 大黒屋	50		7.5
9月5日	奈良	木銭 威徳井屋	48	558	4
9月6日	宇治	木銭 柳屋八右衛門	48	536	9.5
9月7日	大津	木銭 三河屋	65	168	6.5
9月8日	鞍馬	木銭	65	187	
9月9日	京都	ぬいもの屋		612	
9月10日	京都	ぬいもの屋	400	3朱・1775	
9月11日	愛宕	木銭	50	215	
9月12日	粟生	木銭	48	161	9
9月13日	箕面	木銭	60	169	8
9月14日	兵庫	記載なし	184	372	12
9月15日	高砂	船宿 釣屋伊七郎	1匁	1463	
9月16日	(船中泊~丸亀)				
9月17日	金毘羅	木銭 湯島屋	65	2042	

日付	泊	宿	宿泊代(文)	支出	歩行距離(里)
9月18日	四国	船宿 網屋	170		
9月19日	(船中泊)				
9月20日	(船中泊)				
9月21日	赤穂新浜	記載なし	120	675	
9月22日	書写山西坂本	木銭	64	367	9
9月23日	一乗寺坂本	木銭	50	167	7.5
9月24日	古市	木銭	55	206	11
9月25日	天津	木銭 ゆら屋佐兵衛	38	129	11
9月26日	府中大垣	木銭	35	184	6.5
9月27日	松尾河原	木銭	35	126	10.5
9月28日	日笠	木銭	40	164	10
9月29日	今津	木銭	45	123	7.5
10月1日	堅田	記載なし	180	267	
10月2日	常楽寺	木銭	50	259	7
10月3日	今須	木銭	55	161	11
10月4日	白石	木銭	48	138	11
10月5日	醒ヶ井	木銭	48	185	15
10月6日	加納	木銭	64	219	11.5
10月7日	御嵩	木銭	48	141	10
10月8日	大井	木銭	64	91	8
10月9日	野尻	記載なし	138	213	10.5
10月10日	藪原	大鷲屋	132	181	11
10月11日	村井	大鷲屋定兵衛	112	154	11
10月12日	麻績	記載なし	112	151	10.5
10月13日	善光寺	藤屋	164	409	7
10月14日	善光寺	藤屋	164	1分2朱・1451	
10月15日	戸狩	善太郎	124	205	10
10月16日	(帰宅)				

※支出の「分」「朱」は金払い。



④家籠リノ外親類中へ土産物覚

⑤家籠リ親類中ノ餞別・貰へ覚

また日記の部分は、各日ごとに以下の書式で書かれている。

日付

支出(宿泊費は、出発日に計上されている)。

再度、日付を掲出・その日の出発地から経過した距離

支出合計(ㄨ)

こうした史料は、類似史料が多く特別な歴史事象を読み取ることは難しいかもしれないが、いくつもの類例と比較していくことにより、当時の旅、交通、信仰の一般的な枠組みを把握したり、通交地域の歴史を知る史料として役立つであろう。富山にゆかりの類似史料として、以下の史料紹介がある。

近藤浩二「越中からの四国遍路―「道中小遺留帳」を素材

に―」『二〇一三年度 四国遍路と世界の巡礼 公開講演会・公開シンポジウムプロシードィングス』

二〇一四年、愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター。(WEB公開)

鈴木景二「幕末富山人の江戸・伊勢めぐり小遺帳」『富山

史壇』第一七四号、二〇一四年。

〔凡例〕

・原文の振り仮名は「」で示し、簡単な説明注を()で付した。

・字配りは組版の都合により改変した部分がある。

・一日分の簡条書きの中に、同一の日付がはさまって記されている場合がある。これは記述が丁裏にまたがった時、丁裏の右端に見出しのように日付を書いたものである。

〔表紙〕

時天保第十一龍舎庚子出

伊勢参宮・西国札所・諸神社拜礼 道中日記

孟秋廿有一日発足(本文は二十二日から)

〔裏表紙〕

後越之産

小下里邑(新潟県津南町)

大倉與市の(的は郎の意か)

〔本文〕①

(貼紙。八月十一日参照)

「伊勢御本山諸懸り覚(一身田専修寺)

一、金式朱也、御対面料

一、〃沓朱也、志摩様御手次料

一、銭式百文 御内仏拝見料

一、〃百文 御庭拝見料

一、〃百文 志摩様御手代世話料

一、〃百文 宿膏葉屋方へ安内料

一、〃三拾六文 聖人御墓安内料

ㄨ 金三朱銭五百三拾六文 うしろ小左衛門・上ノ長右衛門・

拙者三人割ニ而老人前五百七拾六文宛」

七月廿二日 (出發)

一、貳文 平瀧茶代

一、九拾五文 まき村長左衛門宿拂へ (上越市牧)

藤沢ちまき村迄三リ

一、九拾五文 供喜右衛門宿拂へ

まき村より大口迄二リ、豊隅下曾祢、此所上曾祢と申所

ニ菅原ノ天神様あり、

〆百九拾貳文 八リ

同月廿三日 (牧峠越で上越へ)

一、貳文 大口 茶代

一、拾文 西瓜

一、百五文 供喜右衛門内へ持参仕候、内五拾五文小使、五

拾文内へ返ル

一、拾六文 高田立石茶屋にしめ

一、壹文 高田葉師様さんせん

一、九文 りんご

一、六文 もゝ

一、八文 わらし

一、五文 高田小丸山親鸞聖人御旧跡参銭

一、八文 〃 聖人絵像開帳料

百文十三人割二而如此

一、貳文 聖人八ツ切りノ名号参銭

此浦ニ聖人箸をさしたる杉ノ木、松ニ成たるあり、

一、九文 五地様参銭

人よりも松葉支て 日盛「ザカリ」りのあつさはよわる秋

の初風 千代垣素真

一、五文 りんご

一、三文 あめ

一、貳文 小丸山本堂左り聖人けさかけ松参銭

一、貳文 居多ノ濱大明神

一、百四拾貳文 名立宿 大文字や治兵衛

七月廿三日 まき村十壹里

〆貳百八拾五文

名立ち藤崎迄二リ、此村齋藤九右衛門ト申ものゝ庭松野渡七

八間あり、

七月廿四日

一、貳文 椀川茶代

一、四文 能生ノ小泊り二而りんご

一、壹文 同所さざい

越後能生社、汐路名鐘

むかしより能生社に古きの名鐘これあり、これを汐路のかね

といへり、いつの代より出来たることを知らず、鐘名ありし

かと幾代の汐風に次きくされて見へざりしに常陸坊の追銘と

かや、此かね汐のミちきたらんとて人さわらすしてなること

一里四面、さる故にこのうらハ海士の児までも自然と汐のミ

ち干をしり侍りしに明応のころ焼亡せり、されどもその残銅

をもつて今のかね能登國中居浦鑄物師某鑄返しけるとぞ、猶鐘につきたる古歌などありしといへども誰ありてこれをしる人なし、

へ曙や霧にうつまつかねの声 能生村芭蕉ノ石碑

七月廿四日

一、八文 わらし

一、三文 聖人御真筆名号參銭

一、五拾六文 大和川村ニ而魚買、此所ニ而煮申候、

貳百貳拾四文 四人割如此

一、拾貳文 一ぜんめし

一、三拾文 糸井川ノ上ミ姫川船銭

一、九文 同所名物だんご

一、貳拾五文 とふミ村西連寺聖人船銭ノ名号開帳 (青海)

百文四人別

一、百四拾文 となミ村 佐藤七右衛門

七月廿四日

×貳百九拾文 拾里半

とふミ村方少シ登り鶴ヶ瀧といふ所あり、是方聖人爪引の連

石ニ明ニあり、此連横八尺計リ、夫方さいのかわらの沓本松

といふ所あり、夫よりとなみ村、此村ニ聖人御旧跡あり、す

だれの御名号ニ御しんねへ様の真筆あり、是方一ふりの上ミ

越後越中ノ堺川あり、堺村といふ所なり、

堺之古城本屋敷の上ミ 芭蕉石碑

わせの香や 分入右ハありそ海

濱横村ニ親鸞御旧跡腰かけ石あり、此所ニ地獄へ身かわりニ行候地藏あり、馬喰平左衛門と申もの、母親の身かわりなり、

七月廿五日

一、拾貳文 とまり村 中食代

一、八文 菓子

一、百五拾文 とまり村宿 室屋与四左衛門

中孫助くわくらん仕候故、中食仕候まゝ、にて泊り申候、

同月廿五日

×百七拾文 五里

七月廿六日

一、拾貳文 もち

一、貳文 参銭

一、九文 だんご

一、拾六文 泊り村方三日市迄四りノ所荷物だちん

一、五文 わらし

一、壹文 ふなミ村 聖人直筆名号さんせん

一、拾三文 あいもとノはしのきわ名物一粽

一、五文 三日市 さんせん

一、三日市 三日市 さんせん

あり 三日市徳法寺ニ聖人御旧跡三本柿あり、聖人御真筆名号

あり 六文 三日市 てん

三日市より二り半行、天神野村ノ天神山ニテ謙信公角間ノ城をおとす

一、拾四文 菓子二西瓜

一、百四拾文 なめり皮 菓子屋宿

七月廿六日

〆式百式拾三文 拾里

同月廿七日

一、四文 ふなミノ上ミ はし錢 (愛本橋)

一、六文 わらじ

一、五文 菓子

一、拾式文 にしめ

一、八文 菓子

一、式拾七文 素麵

一、六文 さいせん

一、壹文 越中立山ノふもと足くら村ニテ小野高むら作いん

摩天王へさいせん

一、拾式文 足くら媼堂さんせん

此媼堂ニテ立山いんぎ衆生さいどの文有、(縁起)

七月廿七日

〆八拾壹文 なめり皮ち足くら迄八リ

七月廿八日

一、拾六文 足くらニテ わらじ式束

一、拾式文 立山中ノ茶屋 にしめ

一、六文 茶代

一、六文 御禅様へじゆず上ル (御前ニ雄山)

一、六文 地獄谷 安内錢

一、式拾四文 御禅様へ御飯料上ル

一、式拾六文 地獄谷參錢

内六文 血盆経代

七月廿八日

一、三拾式文 立山道中諸仏參錢

廿八日夜むろ堂ニこもる

〆

同月廿九日

一、式百三拾八文 御禅山役錢

一、百文 浄土山役錢

一、拾式文 浄土山阿弥陀様さんせん

一、拾式文 御禅山御印料

一、拾五文 御禅山諸仏さんせん

一、拾八文 中ノ茶屋 にしめ

内六文 茶代

一、九拾六文 安内ノ合力

合力式人頼ミ料壹貫式百文 十三人割壹人前如此

一、百三拾六文 血盆経納メ申候、母親分

一、三百文 媼堂へ御膳上ケ 御札ヲ貫ヒ申候、

一、四拾八文 絵図式枚 ゑんぎ壹枚

一、五百文 足くら寶傳坊方へ宿払へ 三晩分如此

七月廿九日

〆壹貫六百三文

同月廿七日ニ寶傳坊二泊り廿八日ニ立山へ登ル、寶傳坊方藤橋迄五十町余り、夫ち金「コガネ」坂半道之登り、財木坂半道登り、此坂ノ内ニ信州中野村ノ六部落申候所有、是ヲ六部おとしといふ、熊尾大権現わしが岩やあり、びじやう坂二びじやう杉ノあとあり、夫ちしかりばりの穴・ふだんかふぶつ・だんさいがミさか・かむら杉・だんがたいら、此平ラ二里四方・ぶな坂・やせを・かりやす坂、此所ニテしやうミやうが瀧ミゆる・鍬が谷、此谷関所茶やあり、是が立山中ノ茶屋なり、鍋「ナベ」かふり杉、弥陀が原野、此所ニしやうらいだあり、阿弥陀堂、夫ち一ノ谷小さり大きくさり、此岩ノ上ニしゝがはなといふ岩あり、此岩ノがんくらの中ニテ弘法大師胡摩をたき候処有、右しゝ岩の上ニおちかけの松あり、此所ニ御大師御堂あり、此所ニて大師御詠歌あり、
極楽と聞て参りてみてをれど 弥陀の浄土はいつくなるらん
此時阿弥陀仏返歌
かふしやうのからこくの風がふきくれば ちりくもはれてミ
だとあらわれん
さいのかわら、此道ノ北ニちくしやう道有、夫ち小松坂・上市場・下市場と申さいのかわらなり、是ちかがミ石あり、高とふばと申所ノ北ニ地獄谷あり、夫ち大横を通り室堂、夫よ

り地獄谷廻り仕候、此地獄谷へ行道の右ニミどろが池、左ニミくるが池、是ハむかしハ八かん地獄なり、夫ち少し下り坂中ニ罪人油〆之石有り、地獄地藏尊、夫ち廻り地獄、是ハマをとこぢごくなり、油や地獄、紺屋ぢごく、糞やぢごく、八まんぢごく、大しやうねつぢごく、鍛冶ぢごく、百性ぢごく、血ノ池地獄、からだ銭ノぢぞふ、ぢごくまわり引上ケノいんま王、夫ち御禅山大権現御宝物、御太刀・女のつゝの矢ノ根・馬ノつゝの・じやうはりのかがミ・弥陀ノ御はん・鬼がきバ・行基菩薩ノしやくじやう・天ぐノ爪・古銭色々、立山血ノ池ぢごくへ越中ふなみ村荒川や清兵衛と申ものゝ妻血ノ池へをちさんけいの人を頼ミ内へ願ヲ立テ、右清兵衛方ちあけ候鐘あり、

当七月十二日たちと申所のもの拾八才之男、御禅山ノ内にて不見、

八月朔日ニ足くら立申候

同日(八月一日)

一、六文 わらじ

一、拾弍文 無二膏

一、三文 アリワカサイモン御廟所へ参銭

一、弍百五拾文 富山ニテ壹枚桐油壹ツ代(桐油〓雨合羽)

一、百八拾文 同所宿 平井や又右衛門

八月朔日

〆四百五拾壹文 足くらち富山迄 六リ半

八月二日

一、拾文 橋鏡

高岡ノ随龍寺ニ大納言様ノ墓有、半弓「ハンキウ」寺いふ寺也、

一、拾式文 茶代

一、百六拾文 石動宿 山田や清兵衛

八月二日

百八拾式文 富山方十里

八月三日

一、拾五文 くりから峠名物ノ餅

くりから峠、猿が馬場、芭蕉ノ句

義仲の寢覚の山か月かなし

一、拾式文 枇杷葉湯

くりから峠ニテ暑気あたり仕候テ、田中村庄左衛門・佐右衛門・傳左衛門・孫助、此御方ニ格別世話ニ相成申候、

一、三文 もゝ

一、三百文 津端と申宿ちかがノ金沢迄四リ駕籠ニぬる、

是ハ田中庄左衛門御世話ニテ如此、やすかごニのり申候、

一、拾式文 ふとんせん

一、式文 茶代

一、六文 金沢茶代

一、百六拾文 同所宿小原や

八月三日

百五百拾文 石動ち 八リ

同月四日

一、式拾文 寒生姜

一、拾文 きたふ

一、式文 茶代

一、四文 茶代

一、三文 らうそく

一、七文 あゆ魚沓疋

一、四文 茶代

一、百五拾文 月津宿 やた屋仁兵衛

八月四日

百式百文 金沢ち 十リ

同月五日

一、五文 大昌寺ニテ参銭

一、拾五文 胡榭

いふりはし連如聖人粽キ篠ノ御旧跡 生龍山と申寺ニあり、

細呂木「ホソロギ」村ニ聖人御歌あり、

へおとにきくぬこぎり坂やひきわかれ 身の行すへハ心口細

呂木

よりやすと申村ニ聖人つげの木のやうじをさし候所、良(即)

時ニ青葉を生し候所あり、

一、式文 茶代

一、式文 細呂木茶代

一、八文 だんご

一、七文 六日町ニテ甘酒
一、貳文 岡崎茶代

一、拾五文 舟橋ニテ梅干
一、四拾八文 あんま

一、三拾貳文 黒丸菓壹袋
一、百七拾文 舟橋宿餅屋

八月五日 月津方十一リ
〆三百六文

舟橋方福井迄一リ 福井ノ町ニ西本願寺掛書御坊九品〔ホン〕
じつしやう阿弥陀本願寺といふ寺あり、〔掛所〕

一、六文 くわし

八月六日

一、七文 福井ニテ梨子

此町ノ中程二百間ノ橋あり、半分木半分石、誠ニ日本無双之
橋なり、

一、貳文 さばい茶代（鯖江）

一、拾貳文 わらじ

一、拾三文 もちとも、

一、拾三文 梨子

一、六文 よのふ峠まごじやくし餅（湯尾峠・孫杓子）
安部ノ泰親とほふさふの神出合の峠（疱瘡）

一、百八拾五文 今庄宿島崎や又四郎

八月六日 舟橋方十二リ

〆貳百四拾四文
八月七日

一、九文 今庄ノ宿ニテわかれノ酒割合
一、貳文 とちノ木峠茶代

此茶やニ太閤方拝領之釜あり、水三斗はかり入り申候、
一、壹文 參錢

深見や弥右衛門内ニ石之釜つたわり申候、此峠ニテ拙者・上
ノ長右衛門・後小左衛門、右三人ニテ皆様ニわかれ申候、

一、五文 つばいニテにしめ
一、拾壹文 わらじ

小谷尊勝寺村称名寺ニテ拙者はらをやミ申候、

一、百文 あんま

小谷称名寺ニ泊り、宿払へなし

八月七日 今庄方小谷迄 十二リ

〆百貳拾八文

同月八日

一、五文 砂糖

一、貳拾四文 梨子

一、貳拾四文 中食

一、七文 梨子

一、拾六文 風はらへ壹ふく

一、百七拾貳文 藤皮村宿払へ

八月八日 小谷方五リ

〆貳百四拾八文

八月九日

一、九文 梨子

一、三文 舟付茶代

藤皮ちふな付村迄七リ、舟付ち桑名迄舟道八リ

一、百文 舟銭

一、六文 をこし

一、百七拾貳文 桑名宿やとはらへ

八月九日 藤川ち桑名迄 くが舟道共十五リ

〆貳百九拾文

同月十日

一、三文 善光寺一体分身之如来さんせん

桑名ノ上ミまぢや川はし長サ三百間御座候 (町屋川)

一、五文 菓子

一、貳文 茶代

一、三文 かき

一、貳拾壹文 菓子

一、拾貳文 梨子

一、八文 〃

一、八文 はし銭

一、拾貳文 蕎麦切り

一、壹文 茶代

一、七文 菓子

一、壹文 水代

一、三文 白子ふだん桜へさいせん

一、貳拾八文 米貳合代

一、六拾四文 上野宿丁子や傳七

八月十日 此夜、上ノ長右衛門殿わつらへ申候、

〆百七拾八文 桑名ち九リ 是迄長百ニテ勘定致置申候

(長百。銭百枚で百文として通用)

同月十一日

一、拾貳文 わらじ

一、七文 砂糖

一、七文 甘酒

一、五文 生姜漬

一、拾貳文 御本山親鸞聖人御墓安内料 (専修寺)

一、百貳拾文 御本山別書様へ御手次料

金壹朱 三分一 (三人分の三分の一)

一、貳百三拾九文 御宮様へ御対面料

金貳朱 三分一

一、金壹朱也 参侶ノ志シ さんせん

一、六拾四文 御内仏拝見料

貳百文三分一

一、三拾貳文 御庭拝見料

百文三分一

一、三拾貳文 世話料

百文三分一

一、三拾貳文 膏葉や方へ安内料

一、拾五文 諸仏さんせん

一、六文 ぞふり壺東

一、六拾四文 中食分

一、百六拾四文 伊勢津一身田桐竹膏葉や方へ宿払へ

八月十一日 上野方一身田迄 津迄 一リ

×金壺朱ト八百貳拾七文

是方九六勘定(錢九六枚で百文)

御本山御内仏阿弥陀様 津ノかふのあみだと同体ノ如来ニテ

正ノあみだとなへ申候、

御本山御堂たゝミ数・きやうすくへ(経机数覚

【圖一】

当御宮様御歳二十三才

当子年阿弥陀堂御門立申候、

八月十二日

一、三文 御本山さいせん

一、八文 かき

一、拾文 津 かふのミた(国府阿弥陀)

一、三拾貳文 同仏御開帳料

百文三分一

一、拾文 餅

一、貳拾四文 中食

一、貳文 津ノ町 茶代

一、八文 くもづ茶代

一、拾文 もち

八月十二日

一、拾四文 舟錢

一、六拾五文 伊勢松坂ちくしだ迄三人ニテからしり壺疋

貳百文三分一

一、拾文 からしり役場茶代共

一、六文 いなぎ 舟錢

いなぎニテたばこ入買候得共、長記ニ付おとし候間、下モニ

付置、△合印

一、百五拾文 ミやうじやう宿 富や半七

八月十二日 一身田方ミやうじやう迄 八里

×三百六拾文

同月十三日

一、六百元 伊勢御師へ為替ニ付申候、

一、百貳拾四文 山錢

一、貳百八拾壺文 外宮内宮參錢

一、拾九文 もち

一、拾貳文 茶代

一、四文 とふめかね(遠眼鏡使用料)

一、三拾三文 浅間萬金丹拾壺粒(朝熊山)

一、拾五文 もち

一、金二朱 浅間萬金丹

一、五拾文 竹ノかわこり一ツ (行李)

一、拾三文 あんなへ銭

一、四拾貳文 けん拂へ 貳十壹まへ (劍被二枚)

八月十二日

一、七百五文 いなぎたばこ入、△合印、上ニテ付おとし爰

ニ記ス

同月同日

一、百文 同たばこ入 女向

同月十三日 此夜御師ニ泊り申候、

〆金貳朱ト銭貳貫拾文

廣田御師当年御歳拾六才ニ相成申候、浅間山御本堂ノ前ニ釈

迦如来之足跡かな石ニあり、壹尺四五寸、

八月十四日ノ朝五ツ時分ニ地しんより申候、(地震。揺り)

同月十四日

一、拾四文 わらし

一、貳文 茶代

伊勢田丸ち熊野路ニ相成申候

一、三文 菓子

一、三拾六文 大かせ 中食御せん

一、貳文 さんせん

柳原村ニ西国順礼手引ノくわん世おんあり、聖徳大師様御作、

御詠歌ニ、あらどふと道ひきたまひるくわん世おん 高きい
やしき人もいらはす

一、貳文 見せ 茶代

一、九文 見せ川 舟銭

一、四拾文 のじり宿 木せん

一、三拾九文 米三合代

此所米九合升ニテ一升代百拾五文仕候、

八月十四日

〆百五拾壹文 伊勢山田ち九里

八月十五日

一、三拾六文 まゆミ村 御せん

一、六文 なかしま 舟銭

一、拾六文 古里「フルサト」御せん壹せん

此所ち椿ノ葉ニテたばこをすをとこあり、

一、拾三文 わらし

一、四拾八文 むませ宿 木せん

八月十五日、此夜うしろ小左衛門殿くわくらん仕候、

一、五拾貳文 米四合代

此夜金壹朱兩替仕候、四百拾六文

〆百七拾五文 のじりちむませ迄 五十町道 九里

此所ち米八合升ニテ壹升代百拾文、

一、拾六文 こませ坂 御せん

同月十六日

一、六文 菓子

一、貳文 茶代

一、七文 八鬼山峠もち

一、四拾八文 ミき里村 木せん

一、五拾文 米四合代

同月十六日 むませろミき村迄 六リ

〆百三拾三文

八月十七日

一、三文 くわし

一、貳文 茶代

一、九文 にきしま くわし

一、拾五文 あたしか 塩しび 壺きれ

一、三文 くわし

一、六文 あいの魚

一、三文 大泊り はし銭

一、拾文 札紙壺まへ

一、拾四文 すし

一、三文 大泊りノ坂 観音參銭

一、三文 ありま 舟銭

一、四拾八文 ありまの上ミいちぎ 木せん

米八合升ニテ百拾文

一、四拾八文 米四合代

〆百七拾壺文

(八月十八日)

一、三文 あたわ 舟せん

一、拾壺文 わらし

一、貳拾五文 新宮舟銭

一、三拾三文 しんぐう熊ノ様 役銭

一、八文 まんぢう

一、五文 油あげ壺つ

一、貳文 茶代

一、六文 參銭

一、三文 ミかん

一、五文 もち

一、三文 熊ノ奥ノ院參銭

一、八文 付おとし(記入漏れ)

金壺朱両替仕候、四百拾六文

一、五拾貳文 しんぐう米四合代

八合升ニテ百八文

一、六拾四文 しんぐう木せん かどや九兵衛

此日九ツ時分ちうしろ小左衛門殿、大ニわつらへふるひ申候、

八月十八日

〆貳百三拾六文 いちぎちニリ半

八月十九日

一、貳文 しんぐう茶代

一、五文 もち

一、貳拾文 もち

一、四文 はまのミヤ くわんおん參錢

一、三文 那知山ノふもと茶代

金壹朱兩替仕候、四百貳拾文

一、百五拾七文 那知山ノ坊ニテ山役錢

西光坊ニテ御酒ニそふめん壹ぜん

一、三文 那知山 熊のゝ瀧さんせん

一、拾貳文 〃御本堂

一、拾四文 熊ノ権現 其外所々へ上ル

一、四文 大雲峠 茶代

一、六文 かき

一、四拾文 こぐち 木錢

一、五拾四文 米四合五勺

壹升百廿文

八月十九日

〆三百三拾貳文 新宮ち八リ

同月廿日

一、拾三文 小口わらじ

一、拾貳文 〃舟錢

一、拾貳文 桶川 畑芋壹せん

一、拾貳文 桶川 御せん

一、三文 同所茶代

一、拾貳文 舟錢

一、拾貳文 本宮熊ノ様 御本社へ參錢

一、九文 本宮熊野権現へさんせん

一、六拾四文 〃湯ノ峯木せん

金壹朱兩替仕候、四百拾貳文

一、七拾五文 米五合三勺代

八月廿日

〆貳百三拾貳文 小口ち 四リ半

同月廿日

一、貳拾四文 本宮湯峯小栗リ半判御入湯之所湯錢

一、三拾貳文 湯の花葉師開帳料

一、六文 絵図壹まへ

一、八文 明礬少々

一、五拾文 ゆノ花

一、三拾六文 はミがき

一、四拾貳文 湯花七包ミ

一、六拾文 葉師丸五袋

一、八文 ぢばん洗へ錢

一、七文 まかすの稲安内せん

八月廿日、此所ニ遊行聖人爪引ノ名号石ニあり

〆貳百八拾壹文

同月廿一日

一、貳文 たけの皮

一、拾貳文 わらし

一、三文 ミやうと坂中食 茶代 (夫婦坂)

一、貳拾文 ちかつ 船銭 (近露)

一、拾貳文 わらじ

一、拾貳文 芝 舟せん

一、四文 かき

一、四拾文 汐「シヨ」見峠 木せん

金沓朱両替仕候、四百貳拾文

一、五拾八文 米四合代

必百六拾七文 湯ノ峯方 九里半

同月廿二日

一、六文 なつめ

一、貳文 たなべ茶代

一、拾六文 たなべ村ニテなたまめ買

一、五文 茶代 なつめ少々

たなべ宿「シク」ニ安藤刀帯様御城あり、此所ちみなべの間

ニ菊めい石あり、

一、三文 ミなべ はし銭

一、拾文 きりべ 舟銭

一、拾貳文 薩摩芋

一、四拾文 日高川 船銭

一、貳拾四文 髪結

一、四拾五文 小松原宿木銭

一、五拾貳文 米四合代

八月廿二日

必貳百貳拾三文 汐見峠方 十里半

一、熊の、まなごのしやうじの娘きゆ姫十三づか・あんちん

けさかけの松、熊の方道成寺迄二段々有之申候、あんちんハ

とそつ天ニ生るゝ、姫ハとふりてんに生、姫方以来当年迄九

百拾三年ニなる、道成寺石のきはし六十二だん、

一、拾五文 もち

八月廿三日

一、六文 わらし

一、五拾六文 ゆあきニテ奢り

一、拾三文 まんぢう

一、拾六文 宮原船銭

一、四拾文 梟「カモ」谷宿 木銭

金沓朱両替仕候、四百貳拾文

一、五拾八文 米四合代

八月廿三日

必貳百拾貳文 小松原方九里

同月廿四日

一、貳文 ふじしろ ごんげんへ参銭

ふじしろ村ふじしろごんげん 此所ニテ熊の路をわり申候、

一、拾文 なつめ

一、拾六文 紀三井寺へ参銭

石ノきだはし貳百三十御座候、横貳間余、前二楠ノ大木有、
手水鉢れんの葉さしわたし五尺五六寸位イ御座候、

一、拾貳文 同所にしめ

一、三文 茶代

一、拾八文 同所ちいもせ山へ十八丁舟せん、

一、貳文 いもせ山参銭

一、三文 しやうが

一、拾九文 もち

一、貳拾文 すし

一、三拾七文 中食御ぜん

一、四文 御さい

一、八文 いわで 舟せん

一、四拾八文 岩手 木せん

一、四拾八文 米四合代

八月廿四日

△貳百五拾八文 かも谷ち八り半

同月廿五日

一、拾文 いわで わらし

一、四文 なつめ

一、四文 長門村 やくくわんおん参銭

一、拾八文 粉川寺参銭

一、拾四文 粉川ニテ中食御せん

一、三拾貳文 大づ渡し 舟せん

粉川ち大津迄廿五丁、是迄五十丁道、是ち三十六丁寄り、よ
しの川落尻り紀ノ川大津ノ渡し

一、壹文 なんばん

大津ち花坂迄四り、花坂ち高野大門迄五拾八丁、大門ち北ノ

坊迄廿五六丁、花坂ニテ坊ノ地走とて御酒少々いただき坊迄

安内出しくれ申候、

一、拾三文 わらし

一、拾文 安内ニくれ申候、

此日朝、金壹朱両替仕候、四百拾六文、此時有銭三百四拾七
文御座候、

一、金壹分也、高野北ノ坊ニテ御茶湯碑ニ附

是ハ

一、百文 与右衛門水向とふば(塔婆)

一、五文 せんかふ(線香)

一、貳拾四文 山銭

一、拾貳文 大師本堂参銭

一、拾貳文 じゆうねんさづかり候料

一、三文 萬年草

はせを翁真筆ノ石碑 父母のしきりにこひし雉子の声

一、三百文 北ノ坊清浄心院宿払へ

八月廿五日

△金壹分ト五百六拾六文 いわでち高野迄

八月廿六日

一、三文 くだ山村慈尊院弘法大師御母おたまや

一、五文 同所紀の川舟錢

一、四文 くわし

一、四拾文 大はた村宿木せん

一、六拾壹文 米代

同月廿六日

〆百拾七文 高野奥ノ院ち五り

八月廿七日

一、三文 槇尾寺ノ奥院參錢

此所御宝物あり、太蛇ノかしら、鬼ノきんば、石のまつたけ、

【図2】如此六ツ足ノかい外、石るりのいづるかいあり、弘法大師唐ち持參ノ水びやう、役ノ行者ノしやくじやう、其外

宝劍品々宝物あり、

一、八文 開帳料

一、拾貳文 四番 槇尾寺參錢

一、拾三文 わらし

一、拾五文 中食茶代共

一、拾貳文 信太森うらミくずの葉代

一、拾貳文 堺ニテおなぎ

一、百八拾四文 堺宿 阿内屋茂吉

八月廿七日

〆貳百六拾三文 大畑より八り

此夜壹朱也兩替仕候、四百廿四文

一、拾三文 もち

同月廿八日 堺鍛治じまわり

一、百八拾四文 はさみ 壹丁

一、百三拾貳文 切だし 壹丁

金貳朱兩替仕候、八百五十文、此時金貳朱小左衛門殿ニかし

一、貳百五拾文 剃刀 壹丁

一、八拾文 堺本ミすや 大くけ針 壹疋

一、三拾五文 大はり 五本

一、拾四文 なにはや もち

一、百五拾四文 同所 盃 壹つ

金壹朱兩替仕候、四百廿文、此時金貳朱也、上ノ長右衛門殿へ取かへ

一、拾貳文 住吉様へ參錢

一、拾四文 其外神社參せん

一、貳拾四文 天下茶や 和中散壹袋

一、拾貳文 ぞふり

一、貳拾八文 ばん付

一、貳拾六文 しばい見、小使

一、拾三文 なつめ

一、三拾三文 堺ち大坂迄、安内だちん錢共

上ノ長右衛門殿ち金二朱受取、小左衛門殿ち二朱也受取、
此時小左衛門殿ち百文かり、此夜返濟

一、百貳拾四文 大坂河内や又六宿ニ而中食代

一、四百文 芝居諸懸り

内四十八文 敷もの代

一、貳百四拾九文 河内屋又六宿 上はたご

金貳朱遣し五十六文受取、

一、三百貳拾四文 四はし きせる 壹本

一、五十八文 壹本

壹朱也きせるニテ遣ひ申候

一、三拾八文 壹本

一、百七拾八文 四ツはし 壹本 是ハ宿ニテ買

一、百六拾六文 風呂敷 小 五枚

一、百五拾文 ヲ大貳枚

一、百文 ヲ大壹まへ

壹朱風呂敷ニテ遣ひ申候、両替之過拾壹文受取

一、拾文 とらや まんぢふ

一、八文 安内銭

一、三拾文 もち

一、貳拾八文 中食代

一、四文 さんせん

一、七文 付をとし

一、貳百貳拾四文 大坂 河内や はたご

八月廿八日九日二晩大坂ニ逗留仕候

必三貫百六拾貳文

八月晦日

一、三文 かみ壹まへ

一、五文 大坂 天王寺参銭

一、拾六文 天王寺ノとふ

一、八文 つづれのにしぎ

一、三文 なつめ

一、貳文 ひらの 大念佛へ上ケ

一、拾貳文 五ばんふじ井寺 参銭

一、三拾六文 ふじ井寺門前 中食代

一、三文 上ノ太子 参銭

一、四拾五文 たいまのまんだら 開帳料

一、四拾八文 たいま宿 米や栄蔵 木せん

一、五拾壹文 米代

八月晦日 大坂より八リ

必貳百四拾文

九月朔日

一、八文 もち

一、拾貳文 中食 にしめ

一、拾貳文 六ばん坪坂参銭 (壺阪寺)

一、拾三文 わらし

一、拾貳文 大岑一ノ行場 はらい銭

一、壹文 同所 さんせん

一、八文 舟せん

九月朔日 たいまより吉野迄八里

〆六拾六文

同月二日

- 一、六文 たいまつ代
- 一、四文 吉野三郎ノかね
- 一、六文 二ノとりいノ行場 山役錢
- 一、壹文 しゃうかう料
- 一、三文 さんせん
- 一、拾貳文 はらいせん
- 一、三文 茶代
- 一、三文 場代
- 一、拾貳文 中食 にしめ
- 一、拾八文 わらし
- 一、四拾三文 大岑山上 山役錢
- 遠州佐野郡原いノ郷長福寺ノつりがね、役行者しゃくじやう
- ニテ持参仕候、かねしゃくじやうともに今あり、
- 一、三拾六文 行場 参錢
- 一、貳拾文 御本堂 参錢
- 一、三文 桐油笠番人代
- 一、貳拾六文 中食代
- 金壹朱也両替仕候、四百貳十文
- 一、拾文 もち
- 一、三文 よしの御本社 参錢
- 一、三文 子守様 参錢

一、貳人 勝手明神

一、三拾貳文 横や平右衛門方より だらに助 買

一、三百六拾四文 吉野宿 さごや平右衛門

壹夜逗留仕候、宿払へ

一、拾貳文 たいまつ 壹本

一、貳拾四文 わらし 貳束

一、百拾六文 安内錢 三百五十文 三ツ割り

九月二日 吉野方大峯山上迄六り

〆七百七拾四文

同月三日

- 一、拾貳文 上市 舟錢
- 一、六文 もち
- 一、三拾貳文 とふのミネ 御拝殿拝見料
- 一、六文 〃所 参錢
- 一、三文 中食茶代
- 一、拾貳文 わらし
- 一、拾貳文 七ばん 岡寺参錢
- 一、壹文 あすか明神
- 一、貳文 茶代
- 一、壹文 安部文殊
- 一、五拾文 はせ おふぎや宿 木せん
- 一、五拾六文 米四合三勺代
- 九月三日 吉野方八り

〆貳百壹文

九月四日

一、拾貳文 八ばん長谷 参銭

一、壹文 参銭

一、貳百八拾文 はせち壹り下モ追分ケ 刀刺壹丁

一、壹文 是ち京迄 刀刺送る代

一、貳文 三わ茶代

一、貳文 はし銭

一、七文 法りやうじ参銭

一、拾六文 安内銭

一、九文 なつめ

一、五拾文 ほふりやうじ 大黒や宿

金壹朱兩替仕候、四百貳十文

一、五拾八文 米五合代

九月四日 はせち七り半

〆四百四拾六文

是迄九六也

同月五日

一、三拾貳文 かミゆへ

一、六文 なつめ

一、六拾五文 こふり山 皮きんちやく

一、拾六文 ね緒壹尺三寸

一、拾六文 ねづけ

一、三文 さんせん

一、三文 菅原天神参せん

九月五日

一、七文 奈良参銭

一、貳文 なつめ

一、五文 梅干

一、拾文 味噌少々買

金壹朱兩替仕候、四百廿四文

一、貳拾四文 御ぜん

一、七拾六文 奈良大佛前 西国絵図壹枚

一、拾九文 もち

一、貳文 かぼちや

一、貳拾四文 やふじ

一、四拾八文 雲林堂すみ壹丁

ならつりかね 四万八千九百貫目

一、拾九文 同すみ 壹丁

一、拾貳文 九ばん なんゑん堂参銭

一、貳拾九文 安内銭

一、四拾八文 奈良威徳井や宿木せん

一、七拾六文 米代

九月五日 法りやうじち四里

〆銭五百五拾八文

九月六日

- 一、壹文 ミかん
- 一、七文 せんべへ
- 一、拾貳文 わらし
- 一、七文 くわし
- 九月六日
 - 一、貳文 八幡茶代
 此日拙者はらをやミ申候、
 - 一、五文 八幡様参銭
 - 一、五文 くわし
 - 一、八文 船銭
 - 一、百八文 壹斤拾五匁 花橘「ハナタチバナ」ノ茶 拾匁 入壹箱
- 一、百貳拾四文 壹斤拾八匁 をりたか茶 拾匁入壹箱
- 一、四拾八文 花橘五匁
- 一、百文 青柳ノ茶 四十匁
- 金壹朱遣し三十六文受取
 - 一、四拾八文 宇治宿 木せん
 - 一、五拾三文 米五合代
- 九月六日
 - 一、金五百三拾六文 九リ半
 金壹朱両替仕候、四百貳拾文
 - 一、壹文 びやうどふいん

(九月七日以降、次号)



図2 貝の図



図1 専修寺本堂